S I A S R

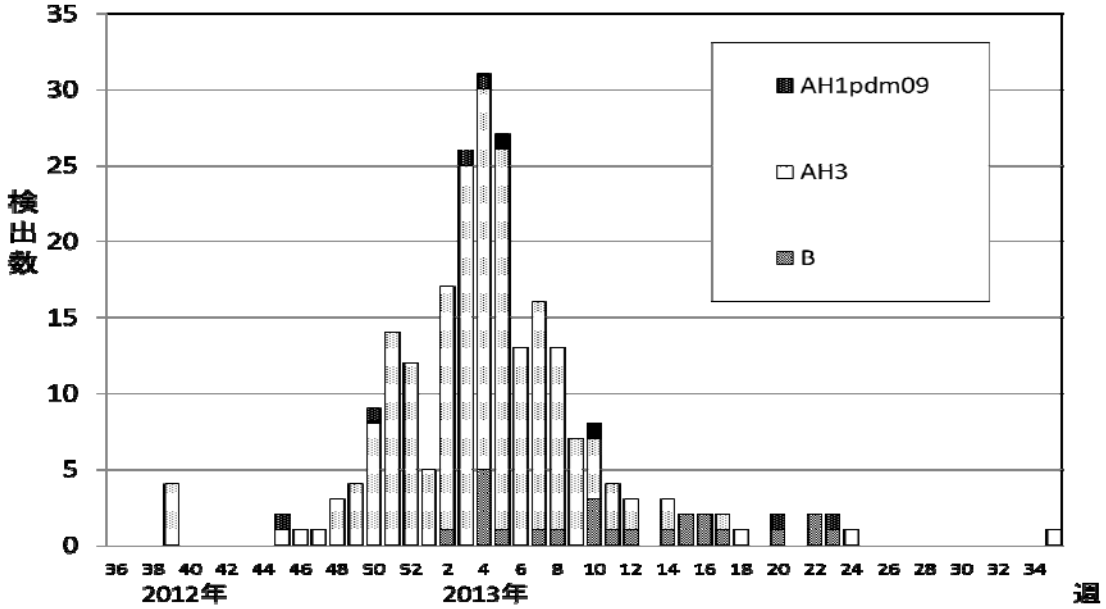
(Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

H25年12月11日

インフルエンザ(2012/13 シーズン)

2012/13 シーズンの全国のインフルエンザ流行状況は、2011/12 シーズンに続き AH3 亜型主体で、次いで B 型が多く、AH1pdm09※の流行は、小規模でした。県内も同様の状況で、AH1pdm09 の検出数は 8 件のみでした。下図に、2012/13 シーズン(2012 年第 36 週～2013 年第 35 週)の県内におけるインフルエンザウイルス検出状況を示しました。

※2009 年にパンデミック(世界的大流行)を引き起こしたウイルスの呼称は、SIASR では昨シーズンまで「A(H1)2009」と略記してきましたが、本稿より「AH1pdm09」と略記します。AH1 亜型(ソ連型)は姿を消しており、現在は AH1pdm09 が季節性インフルエンザウイルスとして扱われています。



週別インフルエンザウイルス検出状況(2012年第36週～2013年第35週)

2012/13 シーズンの全国のインフルエンザウイルス分離株について、抗インフルエンザ薬(ノイラミニダーゼ阻害薬 4 種類:オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル及びラニナミビル)に対する耐性変異の有無を国立感染症研究所が調査したところ、AH1pdm09 の 175 株中 2 株にオセルタミビル及びペラミビル耐性株が認められました(ザナミビル及びラニナミビルに対しては感受性)。AH3 亜型 5044 株及び B 型 1452 株には耐性株は認められませんでした。我が国の抗インフルエンザ薬使用量は非常に多いので、今後も薬剤耐性変異の出現状況の監視が必要です。

2009 年のパンデミックを除けば、近年のインフルエンザ流行には複数種類のウイルスが関与しています。2013/14 シーズンもすでに AH1pdm09、AH3 亜型及び B 型が検出されています。

病原体定点の先生方におかれましては、検体採取をよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報、抗インフルエンザ薬剤耐性調査については、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ(http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html)でご覧になれます。